

○議長（茅沼隆文）

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は１２人です。定足数に達しておりますので、これより平成２７年開成町議会９月定例会議（第２日目）の会議を開きます。

午前 ９時００分 開議

○議長（茅沼隆文）

日程第１ 一般質問を行います。質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

それでは、９番、井上三史議員、どうぞ。

○９番（井上三史）

おはようございます。９番議員、井上三史、先に提出した通告文に従って、開成駅に急行が停まるための町の策について、お伺いいたします。

開成駅に急行が停まるようになれば開成町のイメージはさらにアップします。開成町の元気な証拠が「足柄紫水大橋開通」と「開成みなみ地区街開き」に続いての大きな明るいニュースになるからです。

また、地元住民は「開成駅に急行が停まればさらに便利になる。」と長い間待ち望んでおります。

過去、あじさい祭り期間に合わせてロマンスカーが臨時停車したことがありました。この時、開成町は結構盛り上がりしました。

また、一時的ではありましたが通勤時間帯に急行が開成駅に止まった時があり、当時の通勤者、学生、利用者は結構助かりました。

地元住民を中心に「開成駅を急行が止まる駅にする運動」を起こしているグループがあります。地元住民だけでなく南足柄市や大井町の方々も急行が停まれば開成駅を利用すると言っています。

そこで、開成駅に急行が停まるために町はどんな政策をとるのかお伺いいたします。

以上、登壇での質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、井上議員のご質問にお答えします。今や開成町は、駅周辺の環境整備及び都市計画道路、和田河原・開成・大井線における足柄紫水大橋の開通、南部地区土地区画整理事業の完了等により、町民だけではなく、南足柄市や、大井町など、住民にも利用される拠点的な駅と今はなっております。

開成駅の２００３年度の１日当たりの乗降人員は７，０００人でしたが、この１０年間で約３，５００人増加し、現在では、１日当たり約１万５００人の方が通勤や通学などで利用されております。

町では、これまで開成駅への急行電車停車実現に向け、神奈川県及び県内１２市９町１村と小田急電鉄と構成する「神奈川県鉄道輸送増進促進会議小田急電鉄部会」において、「地域の拠点駅としての開成駅の整備と停車本数の増加」について、毎年継

続的に小田急電鉄への要望活動を実施しております。この要望に対する小田急電鉄の回答は、1日当たりの乗降人数が、判断基準である2万人に達していないという現状と、10両編成で運行されている急行電車停車有効長120メートルに対して、ホームの長さの不足などを理由に、現時点では、一部の急行を除き、開成駅の急行電車停止は実現しておりません。

就労世代を中心とする開成町への定住促進を図っていくことは、町の大きな政策の柱であります。開成駅への急行電車停車の実現は、スピード感を持って定住促進を図っていく上では欠かせない条件と言えますが、逆に急行電車停車のためには、乗降人数2万人を達成することが必須条件となっており、この達成なくしては、小田急電鉄との協議もままならないといった状況であります。

したがって、まず、さまざまな政策を積み上げ、乗降人数増加を果たす必要があります。

具体的な施策としては、これまで、紫水大橋開通に伴い、駅へのアクセス向上のために連絡道路を設置いたしました。また、町内巡回バス運行による開成駅への人員誘導も行っております。

今後も、開成駅及び駅周辺の利便性向上に向けた施策として、駅東口ロータリーの改修や駅前通り線の整備、南足柄市と大井町との連携によるバス路線の構築、郵便局の誘致等の環境整備を進め、乗降人数拡大を図っていきたいと考えております。

小田急電鉄部会での要望活動については、これまでと同様に、県及び県内自治体と歩調を合わせながら、行政として継続的に取組を進めていきます。

なお、これまでの要望活動と並行して、町民や議会との協働による施策として、急行停車実現に向けた動きを活発化していきたいと考えております。

ご質問の中に、地域の住民を中心した「開成駅を急行が停まる駅にする運動」を展開されているグループについて触れられておりました。住民側からこうした気運の高まりがあることは要望活動に強力な後ろ盾となるものとなります。

今後、接触の機会を設け、意見交換をしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

小田急お客様センター経由で、小田急電鉄株式会社に伺ったところ、9月2日にメールが届きました。急行の停車駅をはじめとした列車ダイヤについては、ご利用のお客様からのご意見、ご要望を参考に、旅客需要や、乗り換えの利便性などを考慮しながら決定しているとのこと。お客様からのご意見、ご要望を参考にしているということは、交渉の余地は残されていると判断できます。

さらに小田急電鉄さんのメールには、「開成駅において、隣接駅である新松田駅が急行停車駅であり、列車によっては各駅停車との接続をとっていること。また、急行の停車駅を増やすと、急行の速達性が損なわれること、さらにはホーム有効長の都合

上、6両編成までしか停車することができないことから、10両編成の急行は停車させておりません。今後におきましても、開成駅周辺の旅客流動に注視しながら、よりよいダイヤを検討してまいりたいと存じます。」とあり、先ほどの町長の答弁内容を裏付ける回答です。

そこで今後におきましても、開成駅周辺の旅客流動に注視しながら、よりよいダイヤを検討してまいりたいということは、開成駅の乗降者数を増やす政策が必要だと思われる。

ちなみに9月6日の小田急電鉄さんのホームページから各駅情報を確認すると、開成駅の1日平均乗降人数は1万308人です。答弁の中にもありましたように、急行電車停車を実現するためには、乗降人数2万人を達成することが必須である。これを目標値に設定したとしてお尋ねいたします。

あと1万人の乗降人数を増やすために、乗降ですので、行って戻る実際の人数は、5,000人増やせばいいのかもしれませんが、今後どんな政策を展開するのか、もう一度確認の意味で伺います。お願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

先ほど述べましたけれども、それ以外にも毎年、小田急の山木所長は、あじさい祭りの前と暮れの挨拶ということで、必ずお伺いしております。そのときには必ず急行の話はさせていただきますけれども、ただ、急行をとめてくださいというお願いでは、なかなか実現性はないということで、今2万人という、そういう技術的な話として、それを実現していかなければいけない中で、できれば開成駅周辺の区画整理が終わって、あそこに新しく、できるだけ早く若い人に移り住んでいただきたいので、急行がとまれば、そういう誘致もできるのではないかという話はさせてもらっているのですけれども、なかなか現実的にはそううまくいっていないという中で、今すぐ始めているのは、今年度から巡回バスを町内で運行させていただいて、役場、また開成駅を中心にできるだけ運行を組んでいるというのが一つありますので、できるだけ開成町の皆さんも、その巡回バスを使って、開成駅から乗ってほしいという意味も含めて今進めております。

それ以外にも、毎年、先ほどの部会の中で、きちんとお願いはしているんですけれども、やはり具体的に増やしていくには、足柄紫水大橋も今年開通をしましたので、大井町側からのお客さんを、乗降客を増やしていくということで、今、大井高校の生徒の皆さんは少し歩いて、こちらに向かっていただくこともできておりますので、やはり新松田、大井、開成のバスルートとか、そういうところも、新規獲得ではありませんけれども、やっておく必要があるかなと考えております。

あとはみなみ地区からも、工場会を通して、会社の方々がマイカーではなくて、交通機関を使って、できれば開成駅を使って会社に行ってもらえるような、そういう促しも個別にやっていく必要があるのかなと今考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

ありがとうございます。特に町内巡回バス、始まったばかりですので、もう少し様子を見なければと思いますけれども、開成駅への人員誘導というのは、とてもいい案だと思っております。

また、南部地区区画整理事業完了に伴い、就労世代を中心に定住促進、これもぜひ、早目に進めていきたいと。町長答弁の中にありましたように、やはり定住者が希望するのは、急行がとまるから利便性が高いんじゃないのということも事実ですので、ぜひ、どちらが先かということになるわけですが、その辺のところも進めていただいております。

それから、先ほどの南足柄市と大井町との連携による路線バスの構築ですね。これもぜひ、早く実現していただけたらなと思っております。

さて、南足柄市在住の人に聞いてみますと、車を利用している人が多いせいか、開成駅近くに駐車場があり、まして急行がとまれば絶対開成駅を利用すると言っております。そこで駐車場を整備することも提案していきたいと思っております。

二つ目の提案は、開成駅を利用する県立吉田島総合高等学校、県立足柄高等学校、県立大井高等学校に通う生徒のために、駐輪場の増設整備です。駐輪場増設は、開成町、大井町、南足柄市在住の通勤・通学者にも、開成駅利用度を上げることにもつながると思います。

三つ目の提案は、南足柄市と開成町が協力しながら産業集積を進め、足柄地域全体の発展、活性化を図ることを目的に、平成18年3月に南足柄市と開成町が策定したいわゆる産業集積ビレッジ構想地区の中に位置づけられている、中部産業誘導地区宮台北、約4ヘクタール、及び宮台南地区に、雇用を多く抱える企業の誘致です。雇用が増えれば、開成駅を利用する通勤者が増えてきます。

以上、乗降者を増やす政策として、通勤・通学者にターゲットを絞った提案を、1、駐車場整備、2、駐輪場の増設、3、雇用を多く抱える企業の誘致も効果があるので提案させていただきましたが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

ご提案していただきました点につきまして、お答えさせていただきたいと思っております。

今、3点、ご提案を頂戴しましたけれども、1点が駐車場の整備ということで、こちらにつきましては、今年度、駅東口のロータリー改修等を行っているところではございますが、ただ、大型の駐車場を駅前に持ってくるということだけでは、施策として成り立ちませんので、今後、駅前を開発していく流れの中で、必要に応じて駐車場等の整備を当然してまいりますし、こちらにつきましては、全体の、先ほど町長の答

弁でも申し上げましたとおり、駅前通り線等の事業の着工等もこれから進んでまいりますので、その辺の整合を見て、考えてまいりたいと思います。

それと2点目の駐輪場の増設につきましてでございますけれども、こちらにつきまして、今、指定管理で駅前の駐輪場の運営させていただいておりますけれども、こちらにつきましても、先ほど町長が申し上げましたとおり、大井高校の生徒さんたちが、紫水大橋の開通等で、今、乗降等が増えている状況にあるということで、乗降者数が増えて、ニーズとして駐輪場が足りないという状況があれば、そちらについても、その状況に応じて検討してまいりたいと思います。

それと3点目のビレッジ構想の関係でございますが、地方創生ということで、雇用の創出ということ、交流人口を増やしていくというようなことを政策としてこれから計画の中に盛り込んでいこうという動きがございます。そういうことも含めまして、また、来年度、ビレッジ構想とすれば、具体的な動きが出てくるという状況がございますけれども、こちらにつきましても、全体の駅周辺整備、それに伴う駅の乗降者人数が増加していくと。これからまちづくりを行っていく流れの中で、その辺も全体の計画の中に盛り込む中で、トータルで考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

1点目の駐車場と駐輪場の件でございますが、やはり基本的には民間の方々、町の需要を勘案しながら、ご検討されるのかなと思うわけですが、開成駅前が町の玄関口、顔ということも考え合わせれば、ただ、駐車場しかないような開成駅の町の玄関としての役割がまた損なわれるところでもございますので、そこら辺のところは勘案しながらやってきて、うまく誘導できればいいかなと思っております。

やはり優先的に考えますのは公共交通機関の構築、これが政策的には優先度が高いのかなと考えているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

そうしますと、開成駅が町の顔、玄関にもなるという位置付け、それから民間活力の活用、それから駅前開発、駅周辺の整備、こういうことを考えていきますと、まちづくりそのものの根幹から、計画的な位置付けになるのかなと思われま。これは開成町だけではなく、足柄地区一帯の機能として、今後、開成駅というのは重要な位置付けになるのかなと。したがって、それに伴って、開成駅周辺開発というのは、町にとっても、今後大きな、重要な政策と位置付けられていく可能性がありますので、これについては今後も、随時こちらも研究していきながら、町とともに、議場を通して意見交換をしていきたいなと思っております。

さて、開成駅に急行をとめるというグループのお話を先ほど質問の中でいたしましたけれども、これについて、もう少し私から詳しく説明させていただきたいと思います。

このグループは開成駅に急行をとめるための活動推進体で、結成に向けて数年間構想を温めていたようです。

設立趣旨を伺いますと、1、小田急線開成駅を急行停車駅とするために、さまざまな活動、企画、実施する団体を設立する。2、名称は、開成駅に急行をとめるための活動推進体とし、略称は、開成駅に急行を停め隊とする。3、行政や民間の団体と協力するとのこと。

目的は、開成駅を急行停車駅にするわけですが、そのために乗降者数2万人達成を目標設定しています。これは先ほどの見解の中でも一致している数字なのかなと思います。

研究課題、勉強課題として、1、開成駅を急行停車駅にするにはどうしたらよいか。2、急行停車駅のある町とは、どんな町なのかを挙げています。

同じように、このグループも、どうしたら実現できるのか、それから急行停車駅のある町とは、どんな町なのかということを模索しているということを鑑みますと、先ほど答弁の中にありましたように、住民側からもこういう町をつくりたいという願いとか、要望というのは既に持ち始めている。それを実行に移そうとしている。そういう姿がうかがえると思います。

さらにこのグループに聞いてみますと、グループの役割、そして町長、町行政の役割分担を考えているようです。グループといたしましては、開成駅に急行を停め隊は、計画実現のためのPRや、乗降客増加のためのイベントの企画運営などの実行部隊になろうと考えているようです。また、町長町行政には、政策決定、行政交渉をお願いしたいとのこと。このグループは、町長及び町側に、トップセールスをお願いしたいということではないのかなと思っております。

さらに詳しく伺っていきますと、三つの戦略を考えていました。戦略の一つ目は、パークアンドライド、この文言は、私としても辞書を調べたのですが、ライドというのは、いまいち私のほうでも把握できなかったのですが、内容は、南足柄市と大井町から乗降客を増やすためには、駐車場と駐輪場の増設が必須条件だと言っております。これをパークアンドライドという戦略名称を持っているようです。

戦略二つ目は、巡回バス、ルートが少し町が考えているのとは違ひまして、開成駅をスタートし、開成南小学校方面に行き、次は開成小学校方面、次は開成水辺スポーツ公園、そして開成駅に戻ると、こういうコースを考えております。

戦略3番といたしまして、駅前再開発。これはユニークな考えを持っておりまして、マックスバリュを2階建てにして、開成駅とマックスバリュを2階で連結すると。マックスバリュの1階を駐車場スペースにするというようなイメージなんだそうです。

これらを伺ってみまして、私なりに考えたことなんですけれども、企業をいかにま

ちづくりの中に巻き込んでいくのか、ということなのかなと。したがって、町長をはじめトップセールスの中で、企業に対しても開成町のまちづくりに参画するような働きかけ、町はこういうようなものを考えていると。企業でもこういうところで協力していただけないかというような交渉が必要になるのではないかと、そんなふうになりにイメージを持ちました。

9月6日現在のフェイスブックページを見ますと、このグループの立ち上げたフェイスブックに、27人が「いいね!」をしております。最初は18人でしたけれども、この1週間の間に9人くらい増えているようです。この人数は、まだまだ始まったばかりですので少ないのかなと思いますけれども、ただ、開成駅に急行を停め隊のオーナーさんにお会いすることができまして、直接伺って見ますと、今後はフェイスブックのグループページをつくり、情報収集、啓発活動、勉強会、関係各所への働きかけ、グループの拡大を図っていくという考えだそうです。

以上が、このグループの雑駁な紹介なんですけれども、しかしながら開成駅に急行がとまるための政策について、このグループからアイデアやヒントを多く学ぶことができるのではないかなと思いました。

先ほど町長答弁の最後に、地元住民を中心に開成駅を急行が停まる駅にする運動を展開されているグループがあることだが、住民側からこうした気運の高まりがあることは、要望活動に強力な後ろ盾となる。今後グループとの接触の機会を設け、意見交換をしていきたいという答弁がありました。が、どのような機会を設け、どんな意見交換をしていくのか、もう少しアイデアがあるならば伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、井上議員から、そのような開成駅に停めたいという団体が立ち上がって、自主的に立ち上げて、そういう運動を、今、実際動いていると。フェイスブックまで開設されているという話を聞かせていただいて、できるだけ早く、その皆さんとまず顔をあわせて、間に入って、今、説明をしていただきましたけれども、やはり直接、その団体の皆さんと話をさせていただいて、具体的には、いろいろな三つの提案もいただきましたけれども、町ができること、皆様方にやっていただくとともにいいのかなという部分がありますし、また、開成駅も、今、井上三史議員の話を聞きながら、単に乗降客を増やして急行を停めるということではなくて、開成町の中心となる、顔となる開成駅をどのように位置付けて、きちんと町として方向性を持って進めていくかというのが改めて大きな課題だなと。そういう中で、民間企業を巻き込んでいるという話もありますし、マックスバリューさんの具体的な例も出ましたが、あそこに急行を停めたいというのは、民間の例えば富士ゼロックスさんや富士フイルムさんの従業員の方も、そのような大きな願いを持っていますので、そういう人たちとも力をあわせながら、民間の企業の皆さん、住民の有志の皆さんほか、そういう運動を広げ

ていきたいなど。なかなか町長が社長に会ってお願いするだけでは、具体的に進んでいきませんので、一步一步計画性を持って、いつまでに2万人と、年次をきちんと計画を立てながら、1年ずつ増やしていくと。

駅周辺に住民がまた増えれば、それは当然乗降客数は増えますし、さらに交流人口という形で、あじさい祭りもそうですけれども、開成駅からシャトルバスを使って、あじさい公園まで誘導していますので、定住と交流人口とあわせて乗降客数を増やすということが必要かなと思っていますので、できるだけ今の皆さん団体との顔合わせを早くやっていきたいと思っています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

井上議員。

○9番（井上三史）

今の答弁を聞いておりますと、新しい開成町の動きというものが生まれてきているのかなと思っています。それは行政サイドと住民がタッグを組んでまちづくりをしていくと。まさに、協働という言葉聞いておりますけれども、開成町を町民と行政が協働で、いいまちづくりをしていこうという方向性は、新しい気運として盛り上がりつつあるのかなと、大変心強く私も思います。ぜひ、このグループとのタッグを組んで動いていければいいなと思っています。

最新情報なんですけれども、ロマンスカーが海老名駅と伊勢原駅に停車するという情報があります。この二つの駅はなぜロマンスカーがとまるのかなと、私なりに考えてみますと、伊勢原は大山の観光を持っているんです。それから海老名は相鉄線とで、膨大な人数があると。ちなみに情報を集めてみますと、海老名駅が13万5,861人の乗降者数があります。伊勢原駅も5万1,041人という数字が計上されております。ロマンスカーがここで新たにとまるということは、それなりに観光のものとか、その駅を利用する利便性というものが強く打ち出されているのかなと。したがって、開成駅も、何か開成町にはこういうものがあるから急行を停めるというような何か強いインパクトとなるようなものを見つけていきたいなと思っていますので、ぜひその辺のところも一緒に考えていければいいなと思っています。

以上、短い時間なんですけれども、開成駅に急行を停めるというのは、本当に町だけではなく、町民の多くも強い願いを持っていると。これは開成町民だけではなく、ないしは小田原の開成寄りの栢山地区に住んでいる方々であったり、大井町であったり、南足柄であったり、場合によっては、連絡手段ができれば、山北町に住んでいる人たちも開成駅というのは大きくこれからクローズアップしていけるのではないかなと考える政策になるかと思っていますので、ぜひ力強く、この動きを進めていただけたらなということを切に願いまして、私の質問を終わらせていただきます。